



MMWIN[®]みんなのみやぎネット[®]

より効率的で、質の高い医療・介護サービス提供のために
Vol. 121

第4回「保険薬局のためのMMWIN活用Web講座」

2024年10月16日(水)に「保険薬局のためのMMWIN活用WEB講座」が開催され60名を超える参加となりました。今回は、講演後の座長と演者の談話をご紹介します。

座長：東北大学病院薬剤部副薬剤部長 松浦正樹先生
 演者：ひかり薬局大学病院前調剤センター 藤田尚宏先生
 仙台調剤薬局大河原西店 横谷祐輔先生
 カメイ調剤薬局台原店 佐々木貴彦先生



松浦先生



藤田先生

【講演1】薬業連携ツールを活用した当薬局のポリファーマシー連携

松浦先生：ポリファーマシー対策は、病院でも取り組んでいますがなかなか難しく、薬局でも同じだろうと思います。6剤以上で介入するとお話がありました。結構な人数がいらっしゃると思いますがどうでしょうか。

藤田先生：対象者が多く、算定に至らないことが多いです。ご紹介した13例は算定要件を満たさなくとも注意喚起を行っています。患者さんは「何でもなく、飲んでいますよ」、との回答が多い中で介入のきっかけを見逃さずにつなぎとめるのが難しいです。

松浦先生：入院時と同様に在宅時も重要な活動ですね。

【講演2】MMWINを用いた薬局連携 ー保険薬局薬剤師の介入事例ー

松浦先生：がんフォローアップはこれからどんどん新しい薬が出てきますが病院薬剤師との連携する際に役に立っていることがあれば教えてください。

横谷先生：定期的な勉強会があり、中核病院門前薬局3店舗の薬剤師と病院薬剤師で症例検討を行っています。電話フォローすることで患者さんからの質問に対応しています。例えば発熱や下痢だったり、患者さんの訴えをどう評価するのが難しいのですが、病院プロトコルを紹介してもらい、病院からの質問に薬局側が情報を正しく伝える体制が重要と思っています。誰が電話フォローしてもしっかりと聞き取りができ、情報提供ができるようになることが課題です。その中でCTCAEを用いたり病院のプロトコルを紹介いただくことで、しっかりとした報告が経験を通してできるようになりました。



横谷先生



佐々木先生

【講演3】注射導入のMMWIN活用事例

松浦先生：医師との連携ができていて素晴らしい事例です。MMWINのコミュニケーション機能を使い情報共有していることを聞いたことは有意義なものでした。大学病院では原則FAXは禁止されており、郵送または電子的なやり取りをしているため非常に有効と感じています。症例においては調剤後のフォローアップで入院から在宅に戻ると食生活が変わってしまい悪化して再入院したケースもあります。薬局薬剤師のかかわりの重要性を再認識した次第です。糖尿病患者のフォローアップは病院との連携が非常に大事だと思いますが、うまくいったきっかけを教えてください。

佐々木先生：病院から注射導入指導の依頼がありました。ミーティングには処方医、看護師が参加されており直接先生方とお話できたことで、導入から実践までサポートしてくれたのが良かったと感じています。

ファーマシー対策、経口抗がん剤の服用事例、糖尿病患者さんへの対応などそれぞれのアプローチでMMWINを利用していることをご紹介します。病院と保険薬局との連携が非常に良く進んでいることを参加者と共有できました。

お問合せ先：

一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

Miyagi Medical and Welfare Information Network (MMWIN)

【住所】仙台市青葉区一番町1-15-19 【WEB】<http://www.mmwin.or.jp>

【TEL】022-395-6312 【FAX】022-395-6313 【E-mail】office@mmwin.or.jp

『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。

